

「種蒔く人」(要旨)
聖書箇所：マタイの福音書13章1-23節

【1】 天の御国の奥義

主イエスは集まった群衆に「天の御国の奥義」(マタイ 13:11)を教えました。群衆はそれを知的に把握しようとしてしました。その結果、彼らは「**見ているが見ず、聞いているが聞かず、悟ること**」もしませんでした(マタイ 13:13-15)。人間の理解力や探究心によって理解できる奥義であれば、すでに「**多くの預言者や義人**たち」(マタイ 13:17)が悟っていたことでしょう。「天の御国の奥義」は、イエスの到来によって明らかにされたのです。

イエスは、「天の御国の奥義」を子どもから大人まで理解できる「たとえ」で話しました。「たとえ」を聞いて満足して家路に着く者も大勢いました。イエスは、たとえを入りに真理を尋ね求める者たちに説き明かしをされました。

【2】 種はみことば、地は心

イエスは4つの土地に蒔かれた種のたとえ話をしました。たとえに登場する種は「**神のことば**」(ルカ 8:11)を、土地はそれを聞く私たちの心の状態を表します。

最初に登場する「**道端**」(マタイ 13:4)は踏み固められた心の状態を表します。神のことばを聞いても、先入観が邪魔をして語られていることを尋ね求めません。その後悪い者によって蒔かれたみことばが奪われてしまいます。

次に登場する「**岩地**」(マタイ 13:5)はみことばが根付かない心の状態です。農作業の要諦は石を取り除くことだと言います。それを怠ると種は地に根を張ることができません。みことばを聞いた時に良い反応をしても、それを信じて実行しないので心に根付きません。

次の「**茨**」(マタイ 13:7)が生えた地は、種が生長し、実を熟すまでにならない状態の心です(ルカ 8:14)。茨は雑草の一種で蒔かれた種の栄養をとってしまいます。この世の思い煩いと富の誘惑がみことばをふさいでしまい、実を結ぶことができません。

最後に登場する「**良い地**」(マタイ 13:8)は、石や茨が取り除かれよく耕された柔らかい心の状態です。柔らかい心でみことばを聞くので、みことばがしっかりと心に根付き、実を結ぶのです。

【3】 多くの実を結ぶ人

蒔かれた種が、芽を出し、生長し、そして実を結ぶためには、ひとところで、みことばをじっくりと繰り返して読み、聞くことが必要です(参照:詩篇 1 篇)。聞いたみことばを実践する時、私たちの生き方は大きく変わります(ヤコブ 1:21)。世の中の動向や人の評価に一喜一憂する生き方から、「天の御国」を目指して生きるようになるのです。

イエスは多くの実を結ぶ人は「**みことばを聞いて悟る人**」(マタイ 13:23)だと言いました。みことばを聞いて悟る人は、みことばを自分が理解したいように聞くのではなく、謙虚にイエスに教えを請います。そういう人は、ぶどうの木の枝のようにイエスにとどまります(ヨハネ 15:5)。イエスからみことばを聞き、イエスにとどまり、本当に理解した時、実を結ぶことができるのです(ヨハネ 1:6)。

▷主イエスはみことばを聞く私たちの心の状態を問われています。あなたの心は「**良い地**」ですか、と。

